

平成 24 年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(東員町) の概要

5月31日(木)に東員町役場で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、とういんボランティア市民活動支援センター運営委員会のボランティア団体の代表の皆さん9名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- 総合型スポーツクラブを通じて、健康増進と生涯スポーツに取り組んでいるが、地域の皆さんには、「健康」は行政ではなく、自らがとりくんでいくものだとかわかっていただくことが難しい。
- 朗読や読み聞かせの活動と同時に、地域に昔から伝わる話を、地域の皆さんの心に残してもらおうと活動している。こういう民話などを掘り起こし、地域の皆さんに、ここに住んで良かったと思ってもらえるように語り継いでいきたい。以前、県でも各市町にまつわる民話を集めた冊子などを作成していたので、このような県内の各地域に伝わる民話などを情報発信する「民話フェスティバル」のようなものを開催していただきたい。是非ふるさとを大切にしたい思いを形にしたい。
- 障がいのある人たちが地域の中で不自由なく幸せに暮らせるように支援する取組

を実施しているが、この活動をしていて最後に行き着くのは、「親亡き後をどうサポートするか」という課題である。これまでは、行政などのサポートが中心であったが、これからは、もっと地域の皆さんの力を借りていくことが不可欠になってくる。

- 民生委員の活動は、自治体によって異なるが、なるべく多くの人に顔を知ってもらい、地域の人と行政との橋渡しができるようにしたい。最終的には、つながりを深め、災害の際にも、みんなが周りの人の安否を気遣ってくれるような気持ちを伝えていきたい。
- ユニカールという高齢者の方にもできるスポーツを通じて地域の人とも交流を図っている。健康で長生きできれば、介護保険を利用する人も減少する。今後介護保険等にかかる費用が少しでも抑えられるように、スポーツを通じて地域に貢献していきたい。一方で、介護が必要な方がなかなか施設に入れない現状をなんとかしてほしい。
- 町のガラス温室の有効活用を提言したことをきっかけに、実際に運営に携わっているが、今後は、もっと消費者と生産者の交流を図れるようにしていきたい。
- NPOで婚活に取り組んでいる。少子化対策となると、行政は、子どもにかかる助成などが主だが、その前段も大切ではないかということで活動を始めた。独身の男女ができればここに住みたい、そして子どもを生んでからも住みやすいと感じるまちづくりをしていく必要がある。



【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

- 高齢社会に向けては、スポーツなどのように、介護予防の取組と、施設入所が必要になった際に、受け入れ体制ができていることの両輪の対策が必要と考えている。現在、施設に入れず待機されている方を今後 8 年間でなんとかゼロにできるように目標を立てて頑張っていきたい。
- 県内も合併が進んで、69市町村から29市町になったが、地域に伝わる話などは是非伝承していくべきと考えている。
- 障がい者雇用については、働く場を創る必要がある。障がいや周りの環境は、人それぞれ違いがあるので、働き方にもいろいろなパターンや場を提供することが大切

だと考えている。

- 本日いろいろお話を聞いて、活動の分野や切り口は異なっても、皆さんの活動には共通点があると感じた。一昔前までは、自然と「人と人がつながる」ということができていたことが、近年、段々難しくなってきた、誰かがちょっと汗をかいてうまくつなげていく必要がでてきており、それを皆さんがいろいろな活動を通じてつなげていただいていると感じた。今後は、県全体でしっかりつながることができるように支援し、「市民活動なくして三重県なし」と言えるように頑張っていきたい。

